

任務が偶々其本職と一致せるを以て、一層完全に己れの子を養育することを得べく、従て一層深く家族的快樂を享くることを得べし、余は囊をさげて乞食するも尙此職に止まるべし。

○、人として老後の樂を願はざるものなし。盆栽、圍碁、詩歌、俳諧、琴、三味線、書畫、骨董、花見、芝居、角力、茶に酒、等何れにも、夫れ相當の樂しみあり。然れども過去一生涯の歴史を追憶し、其教養せる幾萬の傑物を集め、彼等にかつき上げらるゝ程の快樂はあらざるべし。乃ち余は老後思出の種子を作るべく、今矢張り此道樂を續くべし。

○、人として死後の榮譽を願はざるはなかるべし、葬儀に際して幾萬の門弟に見送られ、塚の蔭、花の望みの叶ひてこそ人は尊きなれ。余は、彼の世の土産に、たとひ恩給齡に達すとも、退隱せざるべし。

第七編 雜論

第一章 職員の會合に關する批判

第一節 誤認され易き職員會

職員會なる者に議會の權能あるかの如く思ふは大間違なり。議會は、協賛の機關なれども、職員會は諮問の機關たるに過ぎず。何でも角でも、職員會議を経ざれば實施の出來ぬものと思ふべからず。

教育のことは、大概分り切つたることのみなれば、校長の獨思案にて、ズン／＼やつて然るべき筈なり。されば、特に諮問の必要なき場合に於て、職員會を開くは、誠に無意義のことなり。又教育上に關する職員各自の意見は、思付次第、ドシ／＼申し上ぐるがよし。職員會迄見合せておくは、餘りに吞氣の沙汰ならずや。又會のダラ／＼に長引くはわるし。サツサと切上げて仕舞ふが、校長の上手なり。皆も喜ぶし。

第二節 教務打合會に對する我見

教授上、訓練上、管理上に亘りて、全職員其歩武を一にせんが爲めには、全職員の會合を要すること勿論なれども、此は校長の諮問

機關としての職員會とは、其性質を異にする他種の會合なり。又、特に同學年の教務を打ち合せんが爲めには、同學年受持教員の會合を要すべく特に全校の男兒若くは女兒に對する教務の歩調を揃へんが爲めには、同性受持教員の會合を要すべし。又特に高級學年若くは低級學年の教務につき打合を要すべき場合は矢張り當該學年受持教員の會合を要すべし。此等を總稱して、教務打合會とはいふなり。名實相伴はざる會を設くることは、仕事を亂すの本となるべければとて、いひおきたる迄のことなり。

第三節 調査會に對する我見

調査會は、常時存在すべき性質の會にあらず、職員同志が、共同調

査を必要と認むるとき、若くは、特に校長より共同調査を命ぜられたる時、藪から棒を出したやうに、突然に設けらるべき性質の會なり。勿論調査事項の終了せざる間は、矢張り其調査會も存立すべきものと知るべし。平生、會の名のみ存して、別に仕事もせず、有耶無耶にて日を送れる學校もありとの噂あり。多分嘘ならん。

第四節 修養會に關する我見

教材の研究をなし、教授方法の研究をなす爲め、特に研究會を設くる學校あれども、此は修養會の一部と見做すを便とす。何となれば、教材を研究し、教授方法を研究するは、教師の教育的知見を増す所以にして、つまり、教師の修養なればなり。されど此れのみ

にて修養の能事了れりとするは誤れり。今修養會にて行ふべき他の重もなる仕事を左に擧ぐべし。

(一)、讀書批判——或る一種の書物を選定し、總掛りにて、之を研究批判し、以て讀書力を増進し兼て知見を高めんとする修養。

(二)、研究報告——職員各自の發明若くは習得したる事物にして、之を他に傳へて價值ありと認めらるるものを報告し合ひ互に知見を弘むる修養。

(三)、訪問——職員總勢にて、視學其他學者、政治家、有徳者と訪問し、直接の感化指導を受けんとする修養。

(四)、社會研究——職員總出にて、芝居見物、活動寫真見物、夜店廻り等を行ひ、社會の實際を研究批判せんとする修養。

(五) 娛樂—茶會、書畫會、擊劍會、棋會、歌會、遠足、遊山、宴會、ビンボン、テニス、ベース等の娛樂をなし大に心氣を養はんとする修養。

右の内にて五番は流行せるやうなれども、一一三四まだの如し。一より二、二より三、三より四、四より五に及ぶが順なり。逆順にやるべからず。

第二章 他校參觀に對する持説

人の鼻汁たらしたるを見れば、己れ亦目垢を拭ふ氣になるものなり。下手な學校を觀ても、それ程の得はあるなり。況して、よき學校を觀るに於てをや。されば、差繰りのつく限り、他校を參觀するは、誠に結構のことなるべし。又、音に己れを利するの意味に於て

參觀を行ふのみならず、他校に利益を與へんとの意味に於て、參觀に出掛くるも、善き心掛といふべし。蓋し世の中は兼合ひのものなればなり。

又參觀者は、自分免許といへ、其日限りの視學なれば、觀るものも、觀らるるものも、其心を持つが肝要なり。他校では善きやうにいひなし、自校に歸りて後悪しざまに報告するは、此上もなき不徳義なり。非難すべきことは残らずいふがよし。又聞くがよし。一國の教育を思ふ心には、自校他校の別あるまじければなり。

世には、參觀を遊山同様に心得るものありて、碌に授業を觀もせず、そこに勤め居る知己と、茶をのみ菓子を食ひつ、御互に自分々

々の校長の缺點比べをして、徒らに業を湧かし、悪智慧の交換などして歸り來るもあり、今春卒業したばかりのほやくに多く見る所なり。誠めでやは。

「近時參觀の聲喧しきにつれ、校長自身出馬の勢をとり、出張數日に亘り、歸校後、さしたる報告もなく、只其結果、四五冊の表簿増加せるのみ。噫。」とは、阿波國久保佳松君の嘆きなり。かかる事實のありてにや。

第三章 無駄骨を折るなどの絶叫

生存競争、適者生存、自然淘汰の理法として、動物が警戒色を有するが如く、學校長としても、自家保存の必要上、幾らか其の學校の教育に特色を附せんとするものにて、此は或程度迄は咎むべきことにあらざるのみならず、寧ろ校長が爾く欲求するせざるに關せ

ず、校長其自身の人格異彩は、必ずや其學校教育に特殊の異彩を發揮すべきが當然なり。されども、故さらに小細工を施して迄人目を眩まさんとするに至つては、其愚嗤ふべく、其罪許し難し。聞く、ある學校に於ては、教師をして家庭調査を行はしめ、戸々の疊敷を調べ、之を統計平均し、以て其調査の嚴密なるを誇り居れりと。余は始めて之を耳にせしとき、呆然として口のあけ方なきに苦めり。此種の學校に對しては、今にして警戒する所なくんば、聽て、庭の砂粒をも計上するに至る虞なしとせず。思ふに、事と物とに差こそあれ、今の多くの學校に於ては、此種の無駄事に、あたら教師のエネルギーを費消しつつつことと決して尠なからざるべ

し。さりながら、余は總べての調査を以て、悉く無駄事なりと難ずるものにあらず、多少たりとも、學校教育に對して影響を與ふべき事柄は、勿論調べざるより調べたる方ましなるには相違なきも彼の疊數の平均の如きは其數が六であれ、十であれ、學校教育に對して、何等の影響を與ふべきものにあらざるなり。蓋し六疊數に適する教育、十疊數に適する教育の別あるまじければなり。要するに、此種の調査は、多少粗略に失したりとて、其れが爲め教育の死活に關するものにあらず、大體を大觀し、大凡の見當を定むるのみにて、別に差支なきものなれば、全然首の突込所を更めて、寧ろ教育の急所に向つて、全精力を注ぐ方可なるべし。然るに世

間の實際此くの如くならず、此傾向、年一年に甚しきを加ふるは、誠に慨はしきの至りなり。茲に至つて、余は世の視學に物申さざるを得ず。思ふに、斯かる傾向は視學の匙加減一つにて、如何様にもなるものにて、視學の獎勵する所は、校長も亦したが、視學の苦情いふ所は、校長も亦よす氣になるものなれば、視學の一擧一笑は、最も慎重を要すべきなり。まさか視學に分らずやのあるべき筈なければ、這般の惡傾向を獎勵したりとも受取れず、或は冗談半分にお追從笑ひしたるを、馬鹿校長が之を本氣に受け、終に横道に首を突込むに至りしにはあらざるか。何れにしても、教員に無駄骨を折らしむるは、啻に教員が可愛想なるのみに止まら

ず、結局は、教員の限りあるエネルギーを餘所事に費消したるの結果として、児童に直接し、いざ鎌倉といふ一段に、意氣銷沈振はざらしめ、教育の成果に大疵を残すに至るものと知るべし。

第四章 表簿批判

振はぬ會の會員名簿は宛にならぬものなり。いはば飾りのやうなものなり。學校の表簿にも此れに似たるがあり。作るものも作るものなれども、見るものも見るものなり。前者は卑劣にして後者は間拔なり。思ふに表簿は、(一)其が該校の教育を、何等の修飾をも加ふることなしに、實際有りの儘に表彰したるものなるとか。(二)其自身該校教育必須の参考たる價值を有し、日常盛に活用せ

られつつありとか。(三)其が、縱令ひ直接に該校教育の爲めにならずとも、お上へ差出して、一國、一府縣、一郡市教育行政上の参考資料となるとか、何とか、其處に特別の意味あるが爲めに値打あるものなり。只表簿なるが故に値打あるにあらざるなり。さるを世に表簿道樂の教員ありて、表簿其ものの爲めに表簿を作るを面白がるもの多し。恐くは「カント」の無上命法を誤用せる徒ならん。して視學には、正直なるが多ければ、之に魅さるるものも亦尠なからざるべし。さりながら、余は表簿ざらひにあらず、人一倍之を大切に思ふなり。苟しくも役に立つ表簿といへば、千種萬種も作つて見たく思ふものなり。其癖只の表簿を見ることはきらひな

り。作ることは尙更きらひなり。世には又奇妙な人あり。表簿きらひとて、學校の表簿など一向に頓着せぬがあり。學籍簿に手入するでなし。成績考查表を作るでなし。教案も書くでなし。日誌もつけるでなし。而も教育の内容のみ見て呉れがしの顔する仁あり。丸で支那のやり方なり。此種の人、實質と形式とが、互に依存すべきものなることを知らず。實質は實質、形式は形式として、フワリ／＼と遊離して居るかの如く思ふ人なり。哲學といふ學問を知らぬ人なり。即ち形式と實質とは互に、不相離的關係を有すべきものにして、内容の完美なる學校事業は、之を寫實することによりて、直ちに表簿の整頓を

發現し、眞實の値打ある表簿を整頓すると同時に、之に對する學校事業の内容は其美を發揮するものなり。世には又、表簿をきらはざるも、頓と手出しをせぬ人もあり。此れに又二類あり、横着なる人、及、腕の利かぬ人は是れなり。前者は倫理修養をなすべく、後者は習字算術の稽古を始めるがよし。實際學校の表簿は、其種類及數量に於て多寡の知れたるもの也。之をしも完全に整頓し能はざるは、よく／＼の鈍腕なり。かかる鈍腕家は、教師の中にあるまじき筈なれども、あるが事實なり。出席統計や、成績統計の類は、村役場の雇書記の朝飯前なるを、先生には、なか／＼の大騒ぎなり。して月給は一と五との比なり。

第五章 學校衛生批判

學校に關することは、前既に各篇に於て、それとなく述べおきたるもの甚だ多ければ、今は特に取残したる問題のみにつき、章を逐うて我見を述べんとす。

第一節 學校醫優遇論

學校醫の勤務振に對しては、教員側の苦情頗る多けれども、碌に手當も出さず働けとは、チト無理なるべし。年に三十圓、五十圓と聞けば、教員より考へてこそ大金なれ、醫者は、上等の患家一軒より、其數倍の金を捲き上ぐるものにて、大體、教員より遙かに儲けの多き仕事なり。故に學校醫をして、十分學校衛生の實績を擧げ

しめんには、今よりも數倍の手當を奮發せざるべからず。現に澤山の給料を拂へる専任校醫や、手當の割合に多き校醫は、誠に拔目なく勤務しつつあるにあらずや。中には餘り世話焼き過ぎて、却つて有難迷惑を感じるさへありと聞く。ツマリ問題は金次第なり。中には感心なる醫師ありて、手當の多少に拘はらず、學校醫になりたがるがあり。はやらぬ醫者に多し。尤も此はよき考なり。學校醫てふ名は既に名譽を高むべき所以なると共に、親切に學校衛生の世話を焼き、兒童をも丁寧に遇するの結果として、其有難味が、いつしか父兄にもわかり、段々患家の殖え行くものなればなり。

何しろ、目下節約訓令の下りしばかりなれば、學校醫待遇問題も六ヶ敷かるべく、從て、在來より以上に、校醫の世話を待つこと望まきに似たり。されば此際衛生係には代診同様に心得て貰ひたきものなり。

待遇や働振は暫く別問題として、余に一つの願ひあり。先づ監督者に申すべし。學校醫任用上の必須要件として、教育思想のある醫師に限り之を校醫に任用することとしては如何のものにや。蓋し、學校衛生の實績に於て、校醫に教育思想のあるなしが、其醫學に對する造詣の深淺より、却て大なる關係を及ぼすものなればなり。次に、學校醫には、教育書の一冊位や、一種の教育雜誌は、日常

讀んで貰はれぬものによ。要するに、教育思想のあるものを學校醫に任用するか、否らずんば、學校醫に對して教育的修養を強ふるか、二つに一つの王手飛車が、余の切望する所にてあるなり。

第二節 積極的鍛練を主とせよとの號叫

何も知らぬ百姓の婆さんや娘が、自然主義にて蠶を飼ひし時代には、蠶は、なかくに強き蟲なりしも、蠶の研究漸く微に入り、養蠶の術漸く進むにつれて、蠶は次第に弱き蟲とはなれり。肉桂、甘草が有難がられし時代には、人間は、鬼にてありしも、西洋醫者次第にはびこり、病理の研究愈々精を極め、疾病に對する治療豫防の方法、益々進むにつれて、人間は次第にヒヨロ／＼とはなりけり。

り。此れ、養蠶家若くは醫者が、萬一の危害を虞るるの餘り、自ら神経を病みて、單に消極的豫防の方法を講ずるの外、積極的鍛鍊の方案を顧る違なかりしに由る。若し此傾向次第に高まらんか、日は尙出沒するも、活きた蠶や活きた人間は、之を世界に見出すこと能はざるべく、奇妙な新地層が出来て、穴熊の仰天する世となり果つべし。今の學校衛生のやり方を觀て、余が腹をかかへて大笑する所以のもの實に茲に存す。見よ、腸胃の健全なる者は、三枚や五枚の干鰯に成佛せず、東京青山師範出の教員にして、瀧澤校長の命に従ひ、日々冷水摩擦を行ふものは、風を引かず、呼吸器の健在なる職工は、終日煤煙、塵埃の中に稼ぎ居るにあらずや。思

ふに、牛乳及お粥は、必ずしも腸胃の健全を保するものにあらず、ストーブや火鉢や日蔽は、皮膚を保護すといはんより、寧ろ之を害するものにして、偶々風邪若くは日射を起すの具たる感なしとせず。煤煙乃至塵埃も、或る程度に於ては藥となるものなり。而して、呼吸器、消化器、皮膚共に健全なるに於ては、彼の獐猛なる傳染病すら猶恐るゝに足らぬものにて、現に（大正元年十月）東京市本所區傳染病院に收容せる十九人は、檢診の結果虎列拉菌携帯者なること判明せしに拘はらず、彼等は虎列拉病者にあらず、無病息災の人達にてあるなり。又見よ。循環器健全なるものは、能く熱性病に堪へ、脚氣に罹るも衝心せず、神経系の健全なるものは、發狂

もせず、腦病に侵されず、疲勞もせず、思考も衰へず、人十倍働くとも、當節流行の神經衰弱に陥ることなきにあらずや。余が積極的鍛鍊の必要を絶叫する所以の理、以て知るべきなり。若し尙之を疑ふものあらば、試に農夫に問へ、尙ほ分らずば、漁夫に尋ねよ而して終に貧民窟に入りて、詳かに窮民日常の生活状態を查察すべし。彼等は遙かに醫學上の理法を、超絶しながら、猶活きつつあるものなり。茲に至つて、思ひ半ばに過ぎざるものは愚物なるべし。余は雨の日、高等師範學校附屬小學校の門前を過ぐる時、所謂坊ちゃん嬢ちゃんの人車に押込めらるゝを見、轉た憐憫の情に堪へざると共に、爾く無分別なる親によりて製造せられし不幸を氣

の毒に思ふが常なり。故乃木大將を欽するにつけても。

第三節 名醫の積極的衛生論

東京芝に田中武助といふ醫者あり。區會議員でもあり、學務委員でもあり、學校醫でもあり、衛生會の役員でもあり、余が友でもあり、此人なか／＼の積極論者なり。左記は、氏より聞きたる話を思ひ出し、其骨組のみ摘録せるものなり。

衛生法にも積極的と消極的の二種がある。傳染病豫防のために、其病毒に接近せざるやうに勉むること、寒胃を防ぐために寒氣を避くるの類は消極的衛生法で、傳染病毒に觸るゝも、寒風に晒らさるゝも疾病に罹らぬ様に身體を鍛鍊するのが積極的衛生法である。往昔盛行はれたる遊戯及武術も結局鍛鍊主義に基きたる積極衛生法に

過ぎぬ水戸烈公の如きも頗る積極的の衛生論者であつたらしく、其江戸より水戸なる留守宅へ送りし手紙の中に左の如きものがある。兎角子供は歩行致候がよろしく朝も未明より起き水にて顔を洗ひ薄着にて庭などへ出て子供相應にいたづら致し候がよろしく候、風引候へば、其節あたたまり候が宜しく、風引杯とて用心致させ候は以ての外にて候。余四磨初毎朝の水は只今にもあび候事と存候、もしあび申さず候へば、無理にあびさせ申すべく候、さるかはり湯はつかはせ申まじく候事。

此類の文字に依ても日本古來の武士道には鍛練主義積極衛生が勵行されて居たものであると云ふことが分る。然るを今日のやうに消極的衛生のみ盛に唱道せられて國民の身心共に薄弱に向ひつつあるはかへすくも嗟嘆すべき次第である云々。

此他氏の卓説にして、吾人の傾聽するに足るもの少なからざれども、餘りに藥臭ければ略しつ。

第四節 衛生係の大任務に就ての我見

教員の中、醫術開業試験に合格せしもの、若くは、代診、醫者の書生たりしものあれば、其は衛生係の最好適任者なり。若しさる人物なければ、博物趣味のある人にて間合ふべし。人物としては、大膽なるが上に沈着にして綿密なるがよし。副任としては、可成年増にして子持ちの親切なる女教員が適當なり。

尙今日に於ける衛生係の活動振を見るに、只傷病兒の世話を焼き、小使を督して便所の消毒をなし、時々表簿の手入をする位にて大

率、所定の仕事を消極的に遂行するに止まり居るが如き姿なれども、將來に於ては、學校醫並に他の職員と協力し、常に教育の全局面を見渡し、積極的に施設し、改良する所なかるべからず。

斯くてこそ、初めて學校衛生事業に有難き意味は存するなれ。今思ひ當りし儘、將來研究を要すべき學校衛生問題の主要なるものを左に示すべし。

- (一) 設備の全體若しくは部分に於て、衛生上より改良を施すべきものは、果して何々なるか。
- (二) 教材の全量若しくは分節に於て、疲勞問題の立場より考究すべきものなきか。又兒童は幾何程の鍛練に堪へ得べきか。
- (三) 教授の方法上に就て、疲勞問題の立場より、特に改良を要すべきものは、果して何々なるか。又故らに鍛練すべき方法如何。

(四) 特に積極的鍛練的方面より觀て、今の體操教授を如何に改良すべきか。

(五) 訓育に於て、如何に多く、衛生の方面より、改良を促すべき事項あるか。又如何に多く鍛練に資すべき事項多きか。

(六) 如何なる方法によりて、清潔法の確實を將來に期すべきか。又如何に兒童を鍛練することによりて、傳染病菌を常食としながら、猶健在ならしめ得べきか。

(七) 教員の壽命を延ばすべき勤務法は如何に。

(八) 其他。

右は、只大綱を擧げしに止めたれども、之に従屬せる實際問題千

も萬もあるべき筈なり。勿論此等の問題は、教育家といふ教育家の皆が研究すべき世界的問題なれども、特に、學校々々に於ても講究すべき切要の問題にして、かかる問題に始終首を突込み居る衛生係が一番よき衛生係なり。

第五節 柔か過ぎる體操に對する我感

體操教科は、或る見地より、學校衛生上の積極的作業と見做すことを得なければ、其が學校衛生に及ぼす影響は、甚大ならざるを得ず。さりながら、今の體操には、余が氣に合はぬことども、いと多かんめり、昔の體操教師は鬼の如くありしを、今のが役者に似たる其一なり。昔はウン／＼力を入れて、脂を流せしも、今は一種

の躍りに傾ける其二なり。それかあらぬか、今の兒童に、ヒヨロ／＼の多き其三なり。理窟いへば、今の方が却て理窟に適ひしやうなれども、理窟の外に又理窟あれば、一概にはいひ難かるべし。將來我國民が、只上品に立廻り居るのみにて、暮し向きの立つ世も來らんには格別なれども、今の處にては、田の草取りもし、重き物持ちもし、荷ひもし、背負ひもし、又は土を掘り、樹を倒し、器械を廻はし、或は終日店頭に坐り詰め、或は、重き鎚を振り、馬を追ひ、車をも曳かざれば、金の儲からぬ世なれば、今少し使ひ勝手よきからだを作ること、急務に似たらずや。それには、今の體操は考へ物なるべし。

第六節 清潔及消毒に關する我見

日本人の潔癖は肉眼的なり。科學の頭腦なきにや。大家の隱居様や、禪寺の和尚は、頻りに、打拂や箒を使へども、通風、消毒など一向にお構ひなきなり。學校教員にも此流義の人多し、教室は炭酸瓦斯に充ち満ちて、臭氣鼻を衝くばかりなるも、先生平氣にておはすことあり。便所も石炭酸か何かの臭ひがブン／＼しさへすれば、窒扶斯菌も虎列刺菌も其所に居ぬものと思召すが多し。願くは、今一段、科學的顯微鏡的の清潔消毒法を實施して貰ひたきものなり。此は勿論頑強なる兒童の爲めにするにあらざりして、從來餘りに大切にせられたる爲め、既に薄弱に陥りたる兒童の爲

めにする用心なりと知るべし。

第七節 面倒なる身體検査

學校の仕事の中にて、一番厄介なると共に、一番宛にならぬは、兒童の身體検査なり。先づ検査其ものの苦情より言ひ始むべし。身長は計る度に狂ひのあるものにて、體量にも往々此狂ひあり。胸圍も無論同斷なり。何か、よき器械はなきものにや。又よき計り方もなきにや。何しろ、今の分にては、手加減、人加減にて、兒童の身長、體重、胸圍を増しも減らしも出来る道理にて、誠に變なことなり。又體格の強中弱は、全く醫者／＼の匙加減にて、マチ／＼となり居るため、強が中だか弱が中だか、更に判らざれば、之に就て

は、全國共通の標準を定むるを要す。其他そそつかしき醫者は、脊柱彎曲の左右前後を誤り、若くは、齟齬の數など誤り易きものなれども、此は注意して間違ひなきやうして貰ふとして、扱、如上の状態なるが故に、其統計も宛ならず、従つて、統計の統計も宛にならぬ譯なり。宛にならぬものを製する爲め、骨を折るは無駄骨なれば、いつそ止める方可なりと、いへばいはれもし得るものなり。しかし、さういつても居られぬことなれば、可成精確に計量診察するを肝要とす。

次に、身體検査の結果處理に關する苦情を陳ぶべし。此は醫者の側よりいふも、又教員の側よりいふも、頗る大切なる事柄に屬し、

之によりて、兒童の個人及全體の將來に關する學校衛生上の諸種の施設をなし得べく、同時に、過去の學校衛生を回想し、以て反省の資料に供するを得べきにも拘はらず、多くの學校に於ては、筆筒の抽斗に納めたる儘、醫者も教員も、更に頓着せぬが常なり。ヤレ検査だといつては幾日子を費し、ソレ統計だとして、例の下手算盤で、十日も二十日も費し、やう／＼出來上りたる統計表を、何の役にも立てぬとは、さても／＼の限りなり。此れ之を表の爲めに苦勞する教育とはいふなり。

第八節 身體検査と體操教授

身體検査の結果により、身長と胸圍との比例を見るに、個々まち

くなり。身體各部の調和的均齊的發育を期すること體操の目的の一なりとせば、全兒童に同一教程の體操を課することは、甚しき矛盾ならずや。胸圍の大なる兒童には、身長を伸ばすべき體操を課し、身長のみ大なる兒童には、胸部の發達を促すべき體操を課するが至當なるべし。當に之に止まらず、體操教師たるものは、月に一度位は、兒童の身體検査を行ひ、大凡左の如く分類し。

- (一)、頸部の發達悪しきもの、(形に於て、質に於て)
- (二)、上肢の發達悪しきもの、(同右)
- (三)、下肢の發達悪しきもの、(同右)
- (四)、胸部の發達悪しきもの、(同右)
- (五)、腹部の發達悪しきもの、(同右)

(六)、其他特殊の畸形

(七)、醫診の結果内部に障害あるもの

此等兒童を組別し、其組々に對して、適當なる教程を課すべきなり。余は常に今の體操が、却つて人を片輪者にしはせぬかを疑ひつつあり。——劃一主義の極弊、體操にまで。嗟吁。

第九節 學校施療に關する警戒

(一)、救急療法

人は、物事の片端だけ知れば、えらい物知りになつたやうな氣のするものによ。救急療法の講義を一度聞きしばかりにて早や代診を氣取り、非公式の治療を施し、後に至りて取返しの

つかぬことを仕出かすもあれば、骨折の時など、そこらいちくり廻して、さんざ筋肉を傷害したる上、おまけに變て、こな副木
 綑帶を施し、醫者に小言をいはるるもあり。余は幼時お伽話にて、鳩の營巢拙劣なるは、其初め鶯に學びし時、餘り早合點したるに因ることを學べり。今余は此話を一層細かに、小學校の先生に傳へ、今一段救療法の研究をもして貰ひ、いざ大變といふ場合に際しても、泰然として、動ずるなく、擾するなく、其處置を誤らぬやうになつてほしきものなり。

(二) トラホーム治療及傳染豫防

患者に對して、嚴格なる療法を施すと共に、之が隔離法を嚴密

に施行せば、トラホーム絶滅は容易に期待さるべき理詰なれど、實際の成績甚だ不良なるを考ふれば、何れの學校に於ても、治療隔離の點に於て、未だ及ばざる所あるに相違なかるべし。而も其原因たるや、父兄自身が、トラホームの恐るべき所以を知らざると、學校に於ての隔離法が、小面倒なる爲め、表面に於て隔離の形式を備へながら、裏面に於ては、却つて放任せられつるとに因らずんばあらず。何時迄となく、此儘にてすむべきにあらねば、今後は一層猛烈なる退治策を講じたきものなり。

(三) 偶發病兒への施藥

日本人は、ともすれば、自分勝手に、富山の萬金丹や反魂丹を飲

む癖あり。從て學校にても兒童の氣分に少しの變りあれば、す
 くに、何か飲ますを通則とするに似たれども。此は、寧ろ慎むべ
 きことなり。直くに死にさうな病人なら、急に醫師を呼ぶがよ
 し。先づ以て二三日は大丈夫と思ほしき病人なら、父兄に引き
 渡すをよしとす。臍のあたりが何となくクシク痛むといふ位
 な輕病人は、小使若くは學友を同伴せしめて、家へかへすが上
 策なり。唯特別なる場合に於ける特別なる病人に對してのみ、
 豫め特に學校醫の指定せる方法に従ひ、特別の藥餌を與ふるも
 のと知るべし。但し擦創に絆創膏は、此限りにあらず。

附 錄

學校及學級參觀要項

(京都市調査)

附 教授の準備

其學年ト教室ノ配置

其形狀面積及區別井ニ出入口

採光、通風、採暖法ニ對スル配意

兒童用机腰掛ノ大小、形狀、高低及其保管ト排列法

其清潔ト整理井ニ裝飾法

大黑板、小黑板其他教室備附教授用具ノ良否、保管、整頓教師用卓子ト教壇トノ大小、

形狀、高低及保管ト配置

其編制法

其席次ト區分

附 錄

四一三

學級參觀
要項
教授

附錄

兒童

身體ノ發育血色、肉附、清潔并ニ其姿勢、服裝、理髮等
學習用具ノ用意、保管并ニ其取扱方、机内整頓法等
舉手、應答、質問、作業等ニ現ハレタル學習的態度
學習上ニ現ハレタル訓練ノ效果(專心的、共同的、自發的、習慣的、節約的等)
學習上ニ現ハレタル教授ノ效果(理解ノ遲速、既習事項ノ熟否、應用力ノ廣狹、思考力ノ深淺、發表ノ巧拙、注意力ノ保持等)

教師

資格、體質、年齡及其學級トノ歷史的關係
學級ト其性格トノ調和
服裝、姿勢、言語、容儀其他教壇上ニ於ケル態度
其教師固有ノ習癖及長所
遺漏ナキ全級ノ管理
學才ト常識ノ廣狹熟否
教授ニ對スル熱誠ナル意氣及訓練上ノ顧慮
其教科目及其教授ニ對スル確固タル自信ト興味
目的
法令上要求セラレタル
其教科目ノ要旨徹底
形式的……其主眼點ノ把握
實質的……其主眼點ノ把握
教材ノ調査ト取舍選擇及前後ノ教材トノ關係
自他教科目ノ連絡及其補說并ニ郷土ニ於ケル活教材トノ統合

教法

附錄

教材

兒童ノ取得力トコレニ配當サレタル時間及分量、排列
制定セル教授細目ト實際ノ進度トノ關係
教授前ニナシオクベキ教師及兒童ノ豫備的作業其科目ト時間割トノ關係
教具ノ整理(提出スヘキ順序ニ一致セル排列等)
小黑板ノ記入
教案ノ作成(密案、概)

準備

教材ト教法トノ諸點
教授後ニナスベキ教師及兒童ノ整理的作業

教順

教授ノ主義方針ノ徹底
教授ノ出發點ト其歸着點トノ對合
分解法ト總合法トノ調和
教段選擇ノ適否(五段、四段又ハ三段)
教段ニ配シタル教授時間ノ過不足
豫備ノ作業ト其目的ノ徹底
主眼點ノ會得ニ恰好ナル提示法及復演法
理解ヲ確實ニシ又新知識ヲ擴張スベキ致深法(構成法)ノ工夫
新知識ヲ實地ニ活用セシムベキ有效ナル應用法
(各教段ニ於ケル發問及指名ノ適否并ニ答辯ノ處理法)

教授ノ實際

教術

- 級決下教可トノ其否
- 板書法ト其利用并ニ色白墨使用上ノ其否
- 繪畫實物及標本等ノ提出法ト其處理法説明ト引例ノ其否
- 教授上ニ見エタル經濟上ノ配意
- 自習ト思考トノ鼓舞及兒童ノ活動利用法
- 學級教授中ニ於ケル個人教授ノ加味法有效ナル机間巡視法
- 自發的質疑ノ勸誘ト其處理法
- 兒童ノ發表ヲ有效ナラシムル各種ノ考案
- 其學級其教材ニ對スル教音教風ノ調和(言語ノ平易、明瞭、簡潔并ニ其高低緩急、兒童ノ心情ヲ自在ニ擒縱シ得ル熱誠ナル態度、板上指示又ハ説明ヲ助クベキ容態等)
- 兒童ノ疲勞ニ對スル不斷ノ注意ト其處理法
- 理解ニ伴フ臨機ノ處理法
- 其教員獨特ノ長所ト其發揮法

效果ノ豫期セル目「形式的目的」ノ效果：主眼點ヲ理解セシメシ程度「授業後」ノ「實質的目的」ノ效果：主眼點ヲ理解セシメシ程度「處理法」

「〇如何ナル心情ヲ以テ兒童ニ望マバ」

自己ノ準備

右ノメモニ

教材

〇余ハ如何ナル事ヲ教ムルカ

- 1 日々ノ教授ニ新活力ヲ送リ新活氣ヲ負ハシムベキカ
 - 2 兒童ノ歡喜ト勇氣トヲ鼓舞シ得ベキカ
 - 3 兒童トノ間ニ於ケル愛情ヲ強盛ナラシムルコトヲ得ベキカ
- 余ガ言語音調ハ如何ニスベキカ
- 余ガ態度ハ如何ニ處スベキカ
- 余ハ常ニ余ガ習癖ヲ矯正スル注意アルカ
- 目的指示ノ形ヲ如何ニスベキカ
- 其教授セントスルモノハ直ニ授ケラルベキカ
- 何等カ其前ニ話シ置カザルベカラザルカ
- 將又以前ニ授ケシ所ヲ更ニ復習スル必要ナキカ
- 此教材ハ前ニ授ケシ所ト如何ナル關係アルカ
- 將又次ニ授ケントスル所ト如何ナル關係アルカ
- 此教材ハ兒童ノ力ニ適スルカ又豫習ノタメ如何ニ勞セシムベキカ
- 此教材ニヨリテ兒童ハ如何ナル心情ヲ修練シ得ベキカ
- 此教材ハ兒童ノ現在又ハ將來ノ生活ニ如何ナル利益アルカ
- 此教材ハ果シテ其科目ノ要旨ヲ達シ得ベキカ
- 〇余ハ教授セント欲スルモノヲ十分正當ニ會得セリヤ

オ
ー
フ
ル
グ
ル
ベ
フ
の
所
參
照
說

附
錄

教授の準備

- 若シ不明瞭ナル點アラバ
(參考書ニ徴シ先聲ニ質シ)果シテ誤解セルコトヲ傳フルナキ自信アルカ
- 如何ナル方法ニヨリ最モヨク之ヲ傳達シ得ベキカ
如何ニ分解スベキカ
如何ナル例證比喩ヲ引用スベキカ
如何ニ發問シ如何ニ講話スベキカ
兒童チシテ説明セシメンカ將又自ラ之ヲ説明スベキカ
- 真相ト假相、目的ト方便、實象ト抽象、原因ト結果トハ區別シ難キコト多シ此等ノ誤解ヲ豫想シ真相ヲ確得セシムル周知ナル工夫アルカ
實地ヲ目撃セシムベキカ
實驗ニヨルベキカ
コレガタメニ
繪畫、標本、模型ニヨルベキカ
兒童ノ經驗ヲ利用スベキカ
將又他ニ最モ適宜ノ方法アルカ
- 如何ニシテコレヲ兒童ノ日常生活ニ應用セシムベキカ
- 如何ニシテ兒童ガ正當ニ領會セシヤ否ヤヲ確ムベキカ

附
錄

設置、校地、校舍、設備、教科及編制

- 器具
コレガタメニハ之ヲ認ムルニ足ルベキ主要ナル問題ヲ豫定セシカ
○明日ノ教授ニ入用ナル繪畫、標本、模型、器具等ハ整理セシカ又直ニ使用ニタヘ得ルカ
- 小黑板ニ記載シ置クベキコトハナカリシカ
- 豫メ兒童ニ申聞ケ用意セシムルコトハナキカ
設置ノ區域及其區域内ノ戶數人口
學校ノ數及種類
各學校ノ附設、學校ノ沿革
加除科目、隨意科目、不課科目及每週教授時間數
修業年限、補習科、學級ノ編制、一學級兒童數
教員ノ配置
道徳上ノ利害、衛生上ノ利害、教授上ノ利害、兒童通學上ノ便否
學校園實習地其他ノ附屬地
各室ノ設備及配置(通常教室、特別教室、圖書標本室講堂、教員室、宿直室、湯浴室、小使室、便所、昇降口、物置其他)
教授上、管理上、衛生上ノ利害及掃除整理ノ模様
屋外體操場ノ位置形狀及其廣狹、衛生上、管理上ノ適否、運動器械ノ設備
教授上ノ特別利用施設

附錄

體操場

開放下其監督狀況

屋內體操場ノ設備、整理模樣

机、腰掛、黑板其他器具ノ適否

教授用器械、標品模型及圖書ノ設備(購入品、自作品校具ノ使用、整頓、保管ノ狀況)

學齡兒童數、就學兒童數及就學割合并ニ就學督責法、在學兒童數、日々出席欠席平均數、欠席兒童取扱狀況

尋常小學校、高等小學校若クハ此等ノ補習科ヨリ他ノ高等ノ學校ニ入學スル割合

教員數、資格、履歷、待遇、昇給平均年月、勤続年數

學校醫ノ有無、資格、待遇及服務ノ狀況

學校長及教員ノ擔任授業時間

學校長及所屬職員服務ノ狀況、其精神及熱心

職員間ノ融和親睦及其機關

市町村稅、授業料、財產收入、其他

職員給、旅費、備品費、消耗品費、營繕費、其他

教育費一月負擔、教育費中市町村費一月負擔

市町村費一月負擔、市町村費百ニ對スル教育費ノ割合

兒童一人ニ對スル教育費

就學

職員

經費

割合

支出

收入

學校參觀要項

附錄

管理及監督

監督官ト學校トノ關係
管理者ト學校トノ關係
學務委員ノ執務狀況

養護

兒童身體ノ發育及身體検査後ノ處置
兒童運動ノ模樣、兩日放課時間中ノ取扱
畫食ノ作法及食後ノ處置
湯茶ノ供給ト其分量
病弱兒童ノ取扱、應急ノ處置及設備
傳染病ニ對スル處置法
通風採光採暖ニ關スル配意

教授

教授方針ノ統一及特徵、教授細目ノ制定及修正ノ狀態
時間表、週案及日案
教授ノ實際(目的、教材準備、教法教授ノ效果等)
校外觀察、時事教授等ノ特別教授、兩日體操時間ノ取扱
兒童圖書閱覽室、學校新聞等特別施設
優等生、劣等生、其他特殊兒童ノ取扱
兒童ノ學業成績ノ良否、成績物ノ檢閱及其處置法
復習法、豫習法施設

校務

訓練

學用品ノ種類様式取扱方及其購入法
 教授ノ效果(文科、理科、技藝家等)
 訓練要目ノ制定及修正ノ狀況
 訓練方針ノ統一及特徵
 校訓、日訓、週訓等
 校歌、校旗、兒童心得等
 兒童學校ノ生活秩序(登校、下校、教室出入禮法、兒童席次、服裝、禮法等)
 兒童監護ノ模様及其處理、兒童校外取締法
 雨天ニ於ケル放課時間ノ兒童取扱法
 儀式ノ種類次第(三大節、勸語奉讀式、創立記念式、卒業式、入學式、始終式、職員交代式等)
 學級ニ屬スル兒童ノ自治的勤務、掃除、(外來人ノ接待、動植物ノ養護等ノ兒童作業等)
 講堂訓話、學藝會、運動會、遠足會等ノ諸會合、貯金義捐等
 訓練ノ效果(操行、姿勢、言語等)
 事務分掌ノ方法、物品(器械、器具、圖書、消耗品)ノ取扱
 授業料ノ取扱

事

研究

諸表簿ノ種類、様式及整理
 學校衛生事務(身體検査、清潔法等)
 參觀人ノ取扱、小使勤務ノ模様
 職員會、教材研究會、教授法研究會其他ノ會合
 職員ノ研究の興味及目下ノ研究問題其解決
 小學校令及小學校令施行規則等ノ研究
 保護者懇話會、保護者ノ召喚案内及家庭訪問等
 通信簿、雜誌、印刷物等ノ通信機關
 保護者學校參觀ノ模様
 復習、宿題、日誌等ノ兒童ニ課スベキ家庭ノ業務日常及夏冬期休業及其監督
 兒童ノ起臥、飲食、營養、運動等身體養護ニ對スル注意
 卒業生ノ指導監督ノ方法及其成績
 卒業生ノ入學セル學校トノ連絡及其成績
 學校ト校下一般トノ關係
 學校ヲシテ文化ノ中心タラシムル諸施設(夜學會、體育會、通俗教育會、影善會、通俗圖書館等ノ施設青年會、婦人會、其他ノ社會團體ニ對スル學校ノ態度)

社會關係

家庭關係

附
録

〔節句祝祭日及鎌守祭等ノ社會會合ニ對スル學校ノ態度〕

四二四

視學の眼終

大正元年十二月十一日印刷
大正元年十二月十五日發行

〔視學の眼〕
定價八十錢

著
者

米津榮次郎

印
刷
者

株式會社 啓成社

右代表者

遠藤國次郎

製複許不

發行所

東京市日本橋區本銀町
三丁目二番地(今川橋際)

株式會社 啓成社

電話本局二一〇〇番
振替東京一二〇五五番

株式會社 啓成社發行教育圖書

- 國民教育研究會編
 △尋常修身教授真髓 一學年用 全二冊
 定價各六十五錢
 郵稅各八錢
- 國民教育研究會編
 △形式の解説を主としたる國語教授日案 全十二冊
 定價各五十五錢
 郵稅各八錢
- 國民教育研究會編
 △形式の解説を主としたる高等小學讀本教授書 全六冊
 定價各六十五錢
 郵稅各八錢
- 國民教育研究會編
 △形式の解説を主としたる女子高等小學讀本教授書 全四冊
 定價各六十五錢
 郵稅各八錢
- 國民教育研究會編
 △基本練習を主としたる尋常小學綴方話方教授新案 全六冊
 前期完成 定價各三十錢
 郵稅各六錢
- 前高等師範學校訓導萬福直清先生著
 △新定尋常小學讀本文章修辭の研究 全一冊
 定價一圓二十錢
 郵稅十二錢



△國民教育研究會編 普通教育社編 △ 國定小學地理教授新案 尋常五年用	△國民教育研究會編 △ 國定小學地理教師用 尋常六年用	△國民教育研究會編 △ 國定小學地理教授新案 高一年用	△國民教育研究會編 △ 國定高等小學地理教師用 高二年用	△國民教育研究會編 △ 國定小學歷史教授新案 尋常五年用 尋常六年用	△國民教育研究會編 △ 第四十四學年度改訂教科書新教授細目	△國民教育研究會編 △ 新國定教科書使用上の諸注意
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全二冊	全一冊	全一冊
定價五十五錢 郵稅八十五錢	定價六十八錢 郵稅八十錢	定價五十五錢 郵稅八十五錢	定價六十五錢 郵稅八十五錢	定價各五十五錢 郵稅八十五錢	定價五十八錢 郵稅八十錢	定價三十五錢 郵稅四十五錢

△日本女子大學講師白井規矩郎先生解説 △ 體操及遊戲の時間	△東京府屬兼視學大島亨藏先生編 △ 現小學校法規提要 附東京府學事規程	△國民教育研究會考案 △ 尋常國語復習帳 四學年用 五學年用 六學年用	△國民教育研究會編纂 萬福直清先生校訂 △ 小學自習辭典	△東京音樂會編 △ 小學唱歌帳	△普通教育社編 △ 小學校に於ける會合教育の實際的施設	△米津探元先生著 △ 教員視學の眼
全一冊	全一冊	全十二冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價八錢 郵稅一錢圓	定價三十三錢 郵稅四十三錢	定價各六錢 郵稅各二錢	定價三十五錢 郵稅六十五錢	定價二錢 郵稅二錢	定價一錢 郵稅一錢圓	定價八錢 郵稅八錢

高島平三郎先生著
△醫家必讀心

講

話

全一冊

定價一圓卅五錢
郵稅八錢

文學博士 井上哲次郎先生序
文學博士 高橋順次郎先生序

文學博士 遠藤隆吉先生校閱並序
高島平三郎先生著
勝水淳先生著

△人生心理學

全一冊

定價八錢

郵稅一錢

中澤忠太郎先生編

△教育學

格言集

全一冊

定價二十錢

廣島高等師範學校教授文學士三澤糾先生著

△教師の覺醒と其修養

全一冊

定價七十六錢

教育雜誌 普通教育

每月一回一日發行定價二十錢 郵稅一錢五厘
半年分前金一圓二十錢 一年分前金二圓三十錢



2

268
5

終